府中市史編さんだより

第 10 号　　令和 2 年 (2020)12 月 23 日

ムダ堀の遺構（平成 8 年撮影）

ふちゅう温故知新⑧

清水が丘（しみずがおか）

府中市中心部の東に位置するまちで、京王線東府中駅～多磨霊園駅の南に広がる地域です。府中崖線 (ハケ) が東西に走っており、最近まで水の湧き出る場所があり、今でもここに鎮座する「瀧神社」は、くらやみ祭で行われる“競馬 (こまくらべ) 式”の前に騎手と駒がともにこの社の湧き水で清めたことで知られています。まちの名前である「清水が丘」も府中市が誕生した 5 年後の昭和 34 年 (1959) に”清水が湧く清潔なまち”という意味のもとに、住民一致で決定しました。このような場所だったので、遠く縄文時代から人々の営みの跡もみられました。『新 府中市史　原始・古代資料編 1　考古資料 1』に、「清水が丘遺跡」として縄文時代中期～後期にかけての大規模な集落 (住居跡：59 軒発見) が紹介されています。

この清水が丘で平成 8 年東京競馬場単身者寮の建設計画が持ち上がり、発掘調査の結果、近世初頭に造られたという伝承のあった「ムダ掘」と考えられる大溝の遺構が発見され注目を集めました。この発見以前からここには、玉川上水開削の失敗譚やそれに伴う“かなしい坂”の伝承、江戸時代の地図に記される“新堀 (しんぼり)”などが、度々取り上げられてきました。しかし、この遺跡が一体何だったのかの結論には至っていないようです。なお、このムダ掘については、『府中市郷土の森博物館紀要』第 25 号に「「ムダ掘」に関する覚書 」として詳細な考察があります。

また、このまちには戦前海軍の東郷平八郎元帥の別荘があり、元帥の没後「 東郷寺 」が建立されました。広い境内の中に本堂や客殿などが建ちならんでいますが、中でも境内東側に位置する山門は、荘厳かつ巨大なもので、平成 22 年度の東京都選定歴史的建造物に指定されています。この山門は、黒澤明監督作品「羅生門」のモデルとなったことでも知られています。春になると山門の一帯は、枝垂桜につつまれます。府中名木 100 選にもなっているこの枝垂桜は、東郷寺建立の折、総本山である日蓮宗久遠寺より苗を移植したものだそうです。

資　料　紹　介

左　聖徳太子図像版木（花蔵院蔵／副島弘道委員撮影）

右　版本聖徳太子像（石川裕三氏蔵）

太子講とは聖徳太子を紐帯とした講です。聖徳太子は法隆寺を建てた人物としても知られ、大工など職人の神として信仰されてきました。

この太子講に関する資料が市内で見つかりましたのでご紹介します。ひとつは版木で、考古・美術工芸専門部会の調査の際に市内宮西町の花蔵院で見せていただいたものです。版木には明治 21 年（1888）と書かれており同院では参加者の名簿も所蔵されています。ご住職によれば、府中市の太子講は大工のほか商工関係者が加入していたとのことですが、現在では行われていないそうです。もうひとつは民俗専門部会の調査の際に本町の個人宅で見せていただいた前述の版木が刷られた図像です。このお宅のご先祖は大國魂神社の建造物や神輿などを手がけたこともある大工でした。

異なる専門部会で発見した資料が、このように結びつくのも市史編さん事業ならではといえるでしょう。

専　門　部　会　通　信

原始・古代専門部会

考古分野会では、飛鳥・奈良・平安時代の考古資料を収録する『考古資料２』の今年度中の刊行に向けて図版、原稿の作成と編集を進めています。８月～９月には府中市埋蔵文化財整理事務所と市史編さん資料室で、縄文・弥生土器の悉皆的な植物種実圧痕調査を行いました。土器に残された植物の種子の痕跡は、原始・古代の食料事情や植物栽培の実際を知る重要な手掛かりとなることから近年は各地で行なわれるようになってきています。結果、縄文中期の土器から市内で初めてダイズ、エゴマなどの種実圧痕を、弥生前期の土器からアワ、キビ、ヒエなどの栽培植物の種実圧痕を確認するなど、数日間の調査にもかかわらず大きな成果がありました。作業にあたっては連日の猛暑の中、中央大学、國學院大学の学生の皆さんの協力をいただきました。調査結果については整理が終わり次第、市史研究などで報告させていただく予定です。また、通史編の刊行を踏まえて、『考古資料１』の刊行後新たに見つかった土器や資料編に未掲載の土器など追加資料の実測作業や資料の再検討も行いました。

中世専門部会

専門部会を２回開催いたしました。『新 府中市史　中世資料編』が刊行されたことを受け、専門部会では主に、令和４年度刊行予定の通史編に資料編の成果をどのように生かしていくかなど、制作に向けた構想について協議しています。また資料編に収録できなかった市域内の 600 点を超える数の中世石塔に関して、これらを集成・解説する報告書『新 府中市史　中世資料編別冊　武蔵府中の石塔』の刊行を令和３年３月に予定しています。こちらについても、現在、原稿の執筆や、過去の調査記録との照合及び新出資料の把握を目的とする現地調査などの作業を進めています。

近世専門部会

府中宿関係の史料を中心として掲載した『新府中市史　近世資料編上』を刊行し、図書館・学校等関係機関へ配布するなど頒布を開始しました。刊行計画では、今年度中にもう一冊の資料編を刊行する予定でしたが、掲載すべき史料がかなり多く作業に多大な時間を要するため、部会委員と事務局で協議のうえ年度内の刊行を見送ることとしました。来年度中の発行に向けて、しっかりと準備を行っていきます。なお資料調査の一環として実施してきた市内の古文書調査の調査報告書については、計画通り発行するため、現在、編集作業に取り組んでいます。

近現代専門部会

今年度刊行予定の資料編中の構成及び採用資料の確認を行っております。また、引き続き市内外の資料館等に所蔵されている資料を蒐集し

ているほか、九月末時点では府中愛児園、分倍保育園、武蔵府中熊野神社古墳保存会からご協力をいただき、それぞれの組織の設立から今にいたるまでの資料の提供と聞き取り調査を行い、来年度刊行予定の資料編下に向けての資料の充実化をはかるとともに、内容の構成の検討も進めております。

自然専門部会

大國魂神社の社叢の樹木調査を実施しました。市史編さん自然専門部会委員でもある東京農工大学大学院農学研究院の吉川准教授と同大学八木講師、及び同大学院生と学部生のご協力を頂き、大國魂神社全域の樹木調査を実施しました。本調査は、大國魂神社の全域に渡る調査としては初となるものです。対象樹木は胸高周囲（胸の高さ約 1.5 ｍでの幹の太さ）が 20 ｃｍ以上の樹木を対象としてその位置を特定し、更に胸高周囲が 90 ｃｍ以上の樹木については、樹高の測定も実施しました。また、神社本殿南側の囲い地においては植生調査を含めたより詳細な調査を実施しました。調査結果は令和 5 年度刊行予定の通史編において公表となる予定です。

民俗専門部会

通史編執筆に向けた調査を実施中です。最近では特に、双盤念仏、神楽、農業、多磨霊園といったキーワードに関係するところにお邪魔させていただきました。これからもっと活発に調査を進めていくことになることになりますが、共通性のあるテーマでは、偏りの出ないよう市内各地でバランスよくお話を聞かせていただきたいと思っております。市民のみなさまのご協力をいただけますようお願いいたします。

考古・美術工芸専門部会

考古分野では、掲載すべき資料の検討を行い、掲載案の一覧を作成しました。部会で協議したのち、資料の観察調査などを進めていきます。彫刻分野、絵画分野では、大國魂神社のご協力をいただき、合計 6 日間にわたって同神社ご所蔵のご宝物を中心にして、彫刻作品、絵画作品などの資料の調査・撮影をおこないました。調査した内容をどのように反映していくか、部会で協議していきます。今後も市内の寺院、神社などのご協力をいただきながら調査・撮影をすすめてまいりたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

思い出のふちゅう②「新町三丁目の夕日」

府中第六小学校入学式で（昭和 42 年）

昭和 34 年、私の両親は都区内から府中市に転居し一戸建てを構えました。それは都区内職場への交通アクセス、子育て環境を考慮してのことでした。ちょうどこの年、町名地番改正が行われ「新町」が誕生しました。両親によれば、当時の新町はまだ周辺にススキの原野が広がり、雑木林と畑の目立つ寂しい場所だったそうです。

昭和 42 年に私が第六小学校に入学した時の校舎はすべて木造で、教室では木製の机と椅子、石炭が燃料のダルマストーブを使っていました。床が軋む音、戸と床に塗られた油の匂いが今でも記憶に残っています。給食ではアルマイト製の食器に入った脱脂粉乳をまずいと思いながら飲みました。この頃は高度経済成長期のまっただ中で急速に宅地化が進み、各学年 6 クラス最大 1400 人の児童が在籍していました。45 人学級でプレハブ校舎で授業を受けた学年もあります。このため、昭和 44 年には新町小学校、47 年には若松小学校が新設され、その都度学区の変更に伴い親しい校友と別れることになりました。六小の児童は、地付の農家の子、移住してきた戸建ての子、都営住宅の子、社宅の子、自営業の子など、実にさまざまな家の子がいましたが、どの子とも仲良く遊んでいていたことを覚えています。放課後や休日は近くの浅間山に行ってよく遊びました。昭和 40 年代までは浅間山だけでなく、付近の雑木林でクワガタ採集をよくしたものです。高学年になるとその関心は考古学に移行し、友達と武蔵国分寺に自転車で遠征し、地表に散乱する古代の瓦を採集するようになっていきました。

（ふるさと文化財課　中山真治）

市史編さんの活動記録（令和２年４月～令和２年９月）

4月 2日　郷土の森博物館調査（近現代）
6月 5日　府中愛児園調査（近現代）
13日　中世専門部会
17日　大國魂神社調査（考古・美術工芸）
26日　大國魂神社調査（考古・美術工芸）
7月 7日　府中市立中央図書館調査（近現代）
9日　本願寺依頼（民俗）
10日　自然専門部会（オンライン会議）
分倍保育園調査（近現代）
14日　府中愛児園調査（近現代）
17日　近世専門部会（オンライン会議）
18日　中世専門部会
20日　近現代専門部会
21日　市史編さん審議会
府中市立中央図書館調査（近現代）
テレビ広報まるごと府中で市史編さんを紹介（～30日）
29日　大國魂神社調査（考古・美術工芸）
8月 3日　資料調査（原始古代（考古））
～7日
4日　山本社中調査（民俗）
府中市立中央図書館調査（近現代）
5日　大國魂神社調査（考古・美術工芸）
6日　分倍保育園調査（近現代）
7日　原始・古代　考古分野会部会
18日　大國魂神社調査（考古・美術工芸）
府中市立中央図書館調査（近現代）
19日　大國魂神社調査（考古・美術工芸）
郷土の森博物館調査（近世、近現代）
25日　武蔵府中熊野神社古墳保存会調査（近現代）
30日　民俗専門部会
9月 1日　府中市立中央図書館調査（近現代）
7日　近現代専門部会
9日　市内農業調査（民俗）
10日　多磨霊園調査（民俗）
11日　武蔵府中熊野神社古墳保存会調査（近現代）
16日　郷土の森博物館調査（近世、近現代）
23日　府中市立中央図書館調査（近眼代）
～24日
28日　大國魂神社秋季祭調査（民俗）

第３期　府中市市史編さん審議会

府中市市史編さん審議会は７月21日に令和２年度第１回審議会（第３期３回目）を開催しました。事務局より令和元年度事業の実施結果、令和２年度事業の実施状況、市史編さん事業完了に向けての見通しと方向性について報告しました。また委員からは、市史刊行物のＰＲの方法などについてご意見をいただきました。

前号以降、次の皆様にご協力をいただきました。ありがとうございました。（五十音順・敬称略）

安養寺、石川裕三、市川勝造、市川勝彦、市川閲子、市川千秋、市川仁、市川紀子、伊藤真、岩橋清美、大國魂神社、小勝誠一、小勝広志、小川小枝子、小川瑛子、小澤量、小野喜久江、鹿島一夫、金子晟也、金子悠人、神澤郁美、菊池敏夫、日下部次雄、草薙志帆、花蔵院、小糸咲月、髙安寺、公益財団法人府中文化振興財団、河内進一郎、河内千恵子、小林清秀、小林尚子、小山恭男、後藤恵菜、佐々木由香、佐々木涼成、柴田実季、島田邦夫、清水博孝、杉田美沙紀、杉山章子、成城大学図書館、髙田詩織、髙橋郁臣、田代屋精肉店、田中郁雄、田中実、種村威史、多磨霊園管理事務所、東京外国語大学、得居泰司、内藤和良、直江茂、長瀬芳美、難波江春凪、奈良部大樹、西本志保子、橋本和司、比留間正次、藤田英孝、府中愛児園、府中市観光協会、古橋研一、ブレイブルーパス府中ジュニアラグビークラブ、朴澤好美、本願寺、マインズ農業協同組合、松村清隆、松村茂夫、宮井迅吉、武蔵府中熊野神社古墳保存会、村井智恵子、茂木雅之、森太志、矢島浩志、山本竜希、山本頼信社中、吉田峰生

府中市史編さんだより　第10号　令和２年(2020)12月23日
編集・発行　　府中市文化スポーツ部ふるさと文化財課市史編さん担当
〒183-0023　東京都府中市宮町３丁目１番地　ふるさと府中歴史館
TEL 042-335-4376　http://www.city.fuchu.tokyo.jp/bunka/bunka/shishihensan/